

やべらを囲んで、神楽を見物。やべらの光が盛り上げる



『地域をあげての一番大きな祭り。これからも地元色を出した元気な祭りにしたい』

黒坂納涼まつり 黒坂・8月15日

変わらぬにぎわい

8月15日、黒坂小学校校庭を会場に、第42回黒坂納涼まつり（同実行委員会主催）がにぎやかに開かれました。中心にはやぐらが建てられ、周りでは、帰省した人たちが再会を喜び、会話を弾ませるなど祭りを楽しみ笑顔があふれました。

小学生の傘踊りで始まり、次第に活気づく会場。輪投げやラムネの早飲みなどのゲームのほか、つげもの百人会などのバザー、日野高等学校の神楽などでにぎわい、途中、突然の夕立が会場を襲うも、帰る人はなく、暗くなるにつれて多くの人が訪れました。

伝統ある祭り

今年で42回を数える伝統ある祭り。その始まりについて同実行委員会会長の和田佳洋



黒坂小学校児童による傘踊り

さんに聞くと、「盆まつりが始まり。会場は泉龍寺や公民館の庭で行われていた」とのことです。そして「42回続いている祭りを途切れさせてはいけない。鳥取県西部地震の年も花火だけが続けた。しかし、東日本大震災が発生したころは、自粛も考えていた」と振り返ります。

若い力があってこそ

準備は当日午前7時から暑い中40人が集まり、やぐらやテントの設置など行いました。「伝統ある祭りを続けていけるのも若い力があるから」と和田さん。「若者が元気を出してきてくれる。各地区から選出し、役員をお願いするとみんな快く受けてくれる。楽しんでくれてほしい」と自然と笑顔になる。

幅の広い年代が協力してこれまでも行ってきたことが受



ラムネの早飲み競争。みんな一生懸命

け継がれています。

地元色を出したまつりに

ゲームや盆踊りをしたり、地元PTAを巻き込んで地域の人を楽しめる黒坂納涼まつり。今年につげもの百人会やしいたけマンの会といった地域を盛り上げようとするグループがバザーに参加。地元野菜を使った漬物を買いたい求めている人がにぎわいました。

これからについて和田さんは「漬物やシイタケなど地域の特産品のバザーは魅力ある取り組み。大きな可能性を秘めている。また、やぐらを使っている。何かできないかと考えている。地元色を出したまつりにするため、引き続き頑張りたい」と意欲を見せました。

地物野菜の漬物や新鮮野菜が好評



全町一斉防災訓練 10月2日(日) 午前9時～

地震発生、集中豪雨による土石流・洪水などに対応した避難訓練を実施します

いつでも避難できる準備を整えましょう

今年は10月2日(日)に行います。午前9時、一斉にサイレンを鳴らしますので、自治会で決められた仮避難所などに避難してください。

①訓練の目的

訓練を重ねることにより、防災意識の風化防止を図り、町災害対策本部と自主防災組織との連携を強化する。自主防災組織で訓練を行い、地域防災力と防災意識を高める。

②今年度の重要課題

災害時要援護者の安否確認、報告の徹底

③訓練の内容

午前9時にサイレンを鳴らします

- ・防災無線で放送しますので、内容を確認してください。
- ・家にいる人の安否を確認し、火の始末をする。
- ・戸締りをして、懐中電灯など最小限の物品を持ち、安全な避難経路を選び仮避難所へ避難。
- ・防災責任者に家族の避難状況を報告。報告後は防災責任者の指示に従う。

(注) 盗難防止のため、必ず戸締りをしてから避難してください。

※ 訓練中止の場合…訓練当日に突発的な災害などが発生した場合は訓練を中止します。

中止する場合は、防災無線でお知らせします。



台風12号の大雨で崩れた板井原川護岸
身の危険を感じたら、速やかに避難しましょう

町では、平成12年10月6日に発生した鳥取県西部地震の被災体験をこれからもまちづくりに生かすため、毎年10月6日を「日野町防災の日」として定め、その前後に全町一斉防災訓練を行っています。

【問合せ】 役場総務課 防災係 (電話 72 - 0331)

第4回 2011. 11. 5 (土) もみじ開運ウォーキング

受付開始 午前9時
コース Aコース 約14.4キロ Bコース 約8.5キロ
参加費 一般 1,000円
高校生以下 500円 (小学生以下は保護者同伴)
参加賞 幸運を招く「金持箸」(金持神社参拝記念)
申込締切 10月31日(月)
問合せ先 日野町観光協会 金持神社礼所
電話・FAX 0859 - 72 - 0481
Eメール info@kanemochi-jinja.net

